
■ さろん | Mail News 2018/6/18 | #117 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.117 2018年6月18日(月)=====

さ | ろ | ん |

— | — | —

M | a | i | l | N | e | w | s |

— | — | — | — | — | — | — | —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

=====

INDEX

- | 【おしらせ】(6/26) ゆるみんなごみんカフェ / 「エレベータートークはお好きですか？」
- | 【1】 コラム / エッセイ
 - ◇ 『(合)を目指したい』
 - ◇ 『映画で恋心を』(再掲)
- | 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています
- | 【2】 コトバをハーバリウムする
- | 【3】 さろんアーカイブの遊歩道
- | 【4】 ふくろうの広場 (会からのお知らせ)
- | 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

- (6/26) ゆるみんなごみんカフェ
- 「エレベータートークはお好きですか？」

通称『ゆるカフェ』。地味に、ゆるく、今月も営業中です。

「エレベータートークはお好きですか？」。

エレベーターの中でどんな話をするかってアポリアですよ（違う？）。

重役と、他部署の人と、あるいは営業先の管理職と。

逃げ場のない四角い箱の中に一定時間同居するわけで、人によってはそれなりの緊張感を持つ方もいるのではないのでしょうか。

これがエレベーターじゃなく喫茶店のテーブルに相席した人間同士の場合、どこからどんな風に話しがはじまってどんな感じに終わるんでしょうね。

シチュエーションを楽しみつつ、この日集まったみなさんでゆるくおしゃべりいたしましょう。

6月26日（火）19:15 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

6月26日（火）19:15 - 21:30頃

代々木近辺の喫茶店（申込者にご案内）

参加費100円（別途、注文した飲食費実費をお支払いください）

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

（幹事：せりざわ）

【1】コラム/エッセイ

- | | |
|---------------|--------|
| ▽【(合)を目指したい】 | 一生 |
| ▼【映画で恋心を】（再掲） | セリンジャー |

▽【(合)を目指したい】 一生

高度プロフェッショナル制度（いわゆる「高プロ」「残業代ゼロ法案」）を巡る国会の委員会審議*1。共産党の小池晃参院議員が「この制度が通ったら4日間休ませれば、あとはずっと働かせることが、…ずうっと働かせることができることになる。そういうことを法律上排除するしくみがあるか」と聞いたのに対して、加藤勝信厚労大臣は「働かせるということ自体がこの制度にはなじまない」とか「そういう仕組みになっていないんです。法の趣旨もそうでないんです」、「今委員おっしゃったようなことにはならないだろう」等と繰り返した。ご飯論法*2として話題になっている。

弊会が発行するメールニュースに不定期掲載される読み物ミニサロン。3人の登場人物が一つの問いを巡って、それぞれ順番に正、反、合の3つの主張を展開をする。弁証法における概念発展の3段階で、定立、反定立、総合とも言われる。1番目はある主張(正)を展開する。2番目は正を批

判する主張(反)で反論する。3番目は(正)(反)双方の妥当性、優位性を検証し、さらに昇華する主張(合)で総合をする。一つの間いや課題を巡って思考を深めるためにはこの手法は現代でも有効である。大学入試の小論文や評論文等においては現在でも用例があろう。

私達の日常生活、打合せや会議等では思考を(合)にまで広げて、方針決定をしているであろうか。反論に合ったとき(正)(反)妥当性の検証が重要なことは言うまでもない。だが多くの場面で(正)(反)の検証、単なる二者択一に留まり、(反)を統合できる(合)への思考にまで至らない。ご飯論法による法律への質問(=反論)の無視は論外だが、実は私達も(反)の検証段階で汲々としている。日常生活において、できれば国会でも、(合)まで思考を広げる場面が増えて欲しい。さて。弊会哲学カフェでは日常あまりできない多様な意見を聴く中で、(反)に耳を傾け、(合)にまで思考を広げたいと常々考えている。

*1: 上西充子著:

「朝ごはんは食べたか」→「ご飯は食べてません(パンは食べたけど)」のような、加藤厚労大臣のかわし方
<https://news.yahoo.co.jp/byline/uenishimitsuko/20180507-00084931/>

*2: はてなキーワード;

言い逃れ答弁の論法で、「朝ごはんを食べましたか?」という質問に「(朝、パンは食べたけど、ごはん=米飯は食べていない)」と答えるようなやり方。

▼【映画で恋心を】(再掲) セリンジャー

一度別れたカップルがいる。
けれどふたりは、かつてお互いが愛し合っていたことを、ある装置を使って、記憶から抹消している。
そんなふたりが偶然再開する。
そして段々惹かれあい、ふたりは互いに恋をする。
だけどまた喧嘩し、別れを迎えるようになる。
その時、ふたりはふとしたことから、自分たちがかつて恋し合い、別れ、記憶を消したことを知ることになる。
当然ものすごい混乱が起きる。荒れる。ののしり合う。
別離が確定的なものになる。
けどおもしろいのはここからで、ふたりはその後、もう一度じぶんたちの距離を詰めていく。
そして、なんと再々度、恋がはじまろうとする。
今度の恋ははたして続くのか。それとも?
あるいは恋が続くためには別のなにかが必要なんだろうか。
そういうことをたくさん考えさせられる映画、
それが『エターナル・サンシャイン』。

*

先日のさろん哲学のお題は「恋心とは何か？」だった。
恋心と恋と愛と愛情と博愛と。
そのどれもが微妙に違ってどこかで重なってるようだ。
このお題の下、どこを話し合いの中心と決めて進めるのか、その選択の幅広さとその後の議論の多彩な広がりそのものが「恋心」の複雑さをそのまま体現してるかのようにおもえる。
だが、恋心における原点には出会いが不可欠だ。
より具体的な相手の存在が。
それがはじまりになる。
じゃあ恋のおわりは？
愛との関係は？
ラブストーリー系の映画は、私たちがそのような問題に踏み込んで考えようとする際に非常に興味深い。
映画はこれまで、実に多彩な恋の様式を紡いできた。
ここでは哲学的な対話のテーマにも通じるいくつかの映画を紹介しようと思う。

*

NYに住むアラサー女性が友人のパーティーでクールなパリジャンと出会う。
もちろん恋に落ちる。
その時彼女は、自分のなかに恋愛への渴望や結婚願望があることと向き合うことになる。
それまで自分はそんなものに興味がないとおもってきたのに。
彼女はどんどん恋にのめり込む。
結婚を意識しないでいられなくなる。
だけどパリジャンは違う。
彼は彼女にいうんだ。
僕は君を愛してる。だけどそれがいつまで続くかなんてわからない。
わからないけど、いまの僕は君とこうしていることで満たされてる。
彼女の欲求は、この彼の前では満たされない。
だから彼女は彼と距離を置く。
なのに。
彼女は、彼の住むパリへと飛んでいく。
そしてパリの街角のカフェでふたりは再開する。
彼はもちろん、一緒に今といういい時間を過ごすことだけをかんがえてる。
恋する一心でパリまでできてしまった彼女は彼と対面してそれを思い出す。
胸が苦しくなる。どうしようもなく切なくなる。
だけど叫びたいほどうれしい。
なにせ海を越えてきたんだから。
そこで映画はおしまい。
このあとふたりがどうするのか。このふたりを幸せと見るのか。
そういったことはまるまる観た人に委ねられている。
エンディングでふたりが飲むコーヒーは随分苦いんだろうなとおもいながら、「結婚しよう」なんて安っぽくならない分だけ、シンプルで潔い。

だからふしぎと清々しいんだ。
『ブローケン・イングリッシュ』

*

もう一本。
ここにもやはり、恋に落ちた哀しい男がいる。
運命の出会いを感じ愛を告白したところ、女性から「友達になりましょう」と色気のない返事をされる。
でも今どきの二人は、それでもなんとなく恋人関係のような交際をはじめます。
二人のふるまいは恋人そのもの。なのに彼女はいつまでも「友達だ」と言い張るのだ。
そうした形ではじまった恋愛がどこへ転んでいくのか。
なぜ「友達」と言い続けるのか。
友達状態と恋愛状態がここではどう分けられているのか。
それをとびきりスタイリッシュに、ふんだんにキュートに描いた映画。
それが『(500)日のサマー』(2009)。
結末もちろん独創的。

*

この3本をみても、恋心が時間とともに変化してくのがよくわかる。
だけどその先にあるのは決してひとつじゃない。
どこにもいかないこともある。
そういう異なる景色を幾つか観てから「恋心とは何か？」というお題を振り返ると、恋心を探っていくときに自分がどんなとこにいちばん反応するのか、それが前より研ぎ澄まされたような気分になるのだ。

* 『エターナル・サンシャイン』(2004)

ジム・キャリー／ケイト・ウィンスレット

監督ミシェル・ゴンドリー

* 『ブローケン・イングリッシュ』(2007)

パーカー・ポージー／メルヴィル・ポポー

監督ゾーイ・カサヴェテス

* 『(500)日のサマー』(2009)。

ジョゼフ・ゴードン＝レヴィット／ズーイー・デシャネル

監督マーク・ウェブ

※本稿はメールニュース・アーカイブからの再掲(2011年)です。

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【堀越】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ-テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。

みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：堀越)

【2】

コトバをハーバリウムする #32 (クスノキ)

アニメのコトバから

人間の世界では真実はずしも本当の事じゃない。

人間は自分の見たい願望や欲望だけを真実と言う。

人間は真実が口実になれば人だって殺せるんだ。

戦争だよ。戦争。もうすぐ戦争が始まる。

——『輪(まわる)ピングドラム』(渡瀬真俐)

歌のコトバから

何かを悪いと云うのはとても難しい
僕には簡単じゃないことだよ

——東京事変『透明人間』（作詞：椎名林檎）

【3】

さろんアーカイブの遊歩道 #26 (ネムノキ)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第64回

テーマ： 「なぜおしやれをするのか？」

開催日： 2015年12月19日(土)

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/01/salon_giji_64.pdf

この会が開かれたのはクリスマス直前の銀座、土曜日の午後。華やかな街によく似合うテーマでした。お洒落な店が立ち並ぶ銀座という場所を考えて、私も普段よりちょっと良い服を選んでうきうきと出掛けたのをよく覚えています。

お洒落するのは楽しい。だからついファッションを娯楽のようなものとしてイメージしてしまうのだけれど、この日の対話の後、「装う」とは実はなかなかの知的作業なのだと思います。

TPOに配慮して周りの視線も意識して、その場に相応しく悪目立ちしないような服装、でも平凡や無難におちいらず自分がすこしは素敵に見える装いをしたい。そのためには他者の感性への想像力、守るルールと破るルールの峻別、複数のアイテムを組み合わせるバランス感覚、自分の外見についての冷静な理解と適切なゴール設定など、たくさんの思考が必要となります。

お洒落という試みを通して私達は、互いの認知力を測り合い、創意工夫を競い合っているのかもしれない・・・こんな風に考えると、明日何を着て行こうかと、なんだか楽しみになってきませんか？

【4】

ふくろう広場 (会からのお知らせ)

1) さろんラボ 新担当は「堀越」

毎号メールニュースに掲載している「さろんラボ」。

参加者のみなさんから寄せられた企画やアイデア、ご要望と一緒に考えたり実施したりするインキ

ユベーション型のプログラム枠です。

今号をご覧になって気づかれた方もいるかもしれませんが、担当が「堀越」に変更になりました。とんとご無沙汰の「さろんラボ」ですが、引続きよろしく申し上げます。

2) さろん8周年 今年是新イベントも！

毎年9月がさろんのアニバーサリーマンスです。今年で満8周年、9年目に突入です。さろん哲学は定例の第3土曜：9月15日（土）の午後に開催しますが、おそらく別日に、今年はさろんアーカイブからの**Remix**企画が登場します。

みなさんよくご存知の「哲学カフェ」とは異なる、ワークショップ系の企画になる予定です。大勢の方にぜひ体験して頂きたいので、できるだけ早目に開催日をお知らせしたいと思っています。

3) 先週土日に連続開催 1種目で参加？複数種目に参加？

この週末はさろん哲学（哲学カフェ）と朝さろん（読書会）が連続開催でした。土曜のさろん哲学に15名、朝さろんに10名のご参加を頂きました。両日参加された方が3名。

（頻度の多寡はあっても）双方に参加をして下さる方もいれば、さろんで複数実施しているプログラムでも「〇周年」や「クリパ」に狙いを定めて申込みをくれる方もいます。どんな形でも、参加をして頂けるのはうれしいです。

哲学書を読んで対話する「テツドク！」というイベントを実施しているカフェフィロの廣井さんから、「哲学カフェとテツドク！の参加者は、顔ぶれがみごとに違います」と伺ったことがあります。なぜ重ならないのか、あるいはどうして重なるのか。重なってるってことは何を表してるのか。そんなことにも興味が湧いた週末になりました。

編集後記

メールニュース第117号をお届けします。
こんにちは（梶）です。ホウ。

近畿圏にいる皆さん、大丈夫ですか。
今朝の大阪北部地震では相当のご苦勞をされていることとおもいます。
余震にも十分お気をつけください。

*

ルマン 24 時間耐久レースでトヨタガズーレーシングが優勝しました。
8 号車 TS050 hybrid の中嶋一貴と、7 号車の小林可夢偉のタンデムでした。
グループ C カーの頃から 20 年以上ルマンへの挑戦を応援し続けてきて、何回やってもポディウムの 2 位より上に立てなかった。
悲願の優勝と新聞に書かれてまして、確かにそうだと思うんですが、レース後に中嶋一貴が「獲れるものを落としてきた。」と語っていました。
昨年の佐藤琢磨によるインディ 500 優勝のニュースを思い出しながら、偉大なる制覇と、悲願の達成という、複雑に異なる勝利の味わいについて涙しながら考えてた昨夜でした。
(冷えたシャンパンを用意してなかった自分のがっかり)

*

もうすぐ夏至ですね。
トラン・アン・ユンの映画『夏至』の雰囲気大好きです。
毎年この時期になると夏至が観たくなります。軒先に滴るあの雨を思い出す度、ハノイを訪れてみたいと思いますが、実際に行ったことはありません。
フィルムに焼きつけられた色調と、肉眼を通して見る現地の様子。
そこにギャップを感じたらショックだなーと身構えるくらいには、やっぱり大好きな作品です。

梅雨が明けたら本格的に夏の到来ですね。みなさんはどちらに出かけるでしょうか。
「旅×さろん」みたいなことも話し合ってみたい季節です。

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。
編集: (梟)

さろん | Mail News 2018/6/18
⇒次号 (7 月 1 日発行予定)

さろん Mail News 第 117 号 / 2018 年 6 月 18 日発行【読み物号】
編集・発行: さろん
salontetsugaku@gmail.com
<http://salon-public.com/>
<https://twitter.com/salontetsugaku/>
<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーは HP からご覧いただけます。

- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
 - 「あるばか学校」 blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."
